

令和4年度第1回 横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和4年8月18日（木） 15時30分から17時00分まで
- 2 場 所 横浜能楽堂 2階旧レストランスペース
- 3 出席者 張 櫻馨 委員、諸貫 洋次 委員、横山 太郎 委員、横山 直子 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事内容

議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長の選任について 2 定足数の確認について 3 委員会の公開・非公開について 4 令和3年度業務評価について 5 大規模改修について
議事・ 委員意見 等	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長選出について 「横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会運営要綱」第6条第1項に基づき、委員の互選により横山委員を委員長に選任した 2 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。 4 令和3年度業務評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和3年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。 <p><主な意見及び質疑応答> (以下「・」: 委員、「→」: 指定管理者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物販について、対面での販売はできないが、例えばアマゾンとかヤフーショッピングなどに出店すれば、対面じゃなくても売れるツールになると思っている。 →ショップに関しましては、今年度から徐々に再開をしている。ネットショップでやってみてはという提案も検討する。 ・財政状態がよくない中で、これから節約だけでなく、収入を拡大していくという視点とか活動も必要だと思っている。 →財源の確保だが、お金だけではなくて、能楽に関して支援をしてもらえる方を広めていくというのがミッションでもあるので、そういった方々にアプローチをしてい

く方法を考えつつ、財政的な支援をしてもらおう方法も考えていく。

・クラウド型の予約システムを導入することだが、横浜市が行うのか、指定管理者が行うのか。

→指定管理者でシステム導入をしていたものが故障したことによって、新しく入れ直したということ。実際に新しいシステムを入れたのは、令和2年度の10月から。

・トイレのウォシュレットの要望が毎年のように出ている。毎年実現していないというのは、大規模修繕でやるということなのか。

→令和2年度に一部だけウォシュレットに替える機会があったが、資材の調達ができなかったことにより実現しなかった。大規模改修で行う。

・コロナの影響で翌年度に延期した公演について、お客様に公表してから延期になったのか、公表する前に計画の段階で延期にしたのか。

→延期した公演に関しては、公表した後にやめて延期ということではなく、お客様に出す前に、翌年度に延期した。

・広報を一昨年度ぐらいから積極的にしている。どういったことを広報して、それに対してどれぐらいのリアクションがあったのか、実際に来客に繋がったのかなどの、評価と分析は行っているか。

→広報の評価、分析に関しては、残念ながら体系的な形ではできていない。個々の振り返りはあるが、それを分析といった形はまだできていない。今後の課題だと思っている。

・厳密な分析でなくてよい。ここ数年でマンションや近隣の施設が充実し、このエリアそのものの集客力が上がっていると思う。そういう人たちがどういう企画には来てくれるようになったといった手応えみたいなものがあれば教えて欲しい。

→無料のものについては、より多くの方に来ていただきたいという意図でやっている。より重点的に近隣の方々にチラシ配布や御案内をするように心がけている。アンケート等で数値を取ったわけではないが、声がけしてみると、「近くにあるのに知らなかった」といった声を実際に聞くことができた、重点的に近隣にまいたことが効果としてはあったと思っている。

【評価する点】

・限られた予算の中で、創意工夫して予算内でいろいろな活動しており、堅実なマネジメントの仕方に好感が持てる。

・コロナ禍に対応しながら安定した維持管理をしている。目標を上回る快適評価のポイントを維持しているところがすばらしい。

・システム導入といった先行投資的なことを、今この厳しい時点でするのはすばらしい。

【さらなる取組を期待する点】

・神奈川大学との提携が、前年度よりも関係が密になっている。その経験を生かして、ほかの大学にも同じアプローチができるのではないか。

・みなとみらいの企業は、多国籍企業が多く外国籍の従業員が増えている。そういった企業と何かコラボしてみてもどうか。

・資金調達の取組で、補助助成獲得に取り組んでいる、前年度よりも大きな金額を達成しているので、引き続き尽力してほしい。

・コロナでお客様の入れ替わりが起きている。その中で今後、広報にどう工夫をしたらよいか、ぜひ横浜能楽堂には先進的に引っ張って行ってほしい。

5 大規模改修について

(1) 大規模改修の概要について

事務局から、大規模改修の概要についての説明があった。

(2) 休館中の事業の概要について

指定管理者から、休館中の事業の概要について説明があった。

<主な意見及び質疑応答>

(以下「・」: 委員、「→」: 指定管理者)

・能楽堂を貸館利用していた人たちはどうなるのか

→代替施設は、稽古場としての利用を考えている。本舞台で公演を行っていた方たちには、他の施設を借りてもらうことになる。他の施設を借りる上での心配事などの相談は受けていく。

・これまでに薪能、外でやる経験はしているので、ノウハウは持っていると思うが、定期的にはできない。横浜市はそれでよいのか。

→(事務局) 紅葉坂にある施設だが、各区の施設に出ていき色々な取組をしてもらいたいと考えている。横浜能楽堂に来たことのない方が多くいると思う。このタイミングで知ってもらうチャンスと考えている。

・指定管理者の改修中の居場所はどこになるのか。横浜能楽堂に残れるのか。

→(事務局) 空調がすべて止まってしまうので、別の仮事務所になる。

・施設の改修ということで、根本的構造はこのままで、設備の増強は難しいということか。例えば、国立能楽堂のように座席に字幕用のモニターがつくといった設備投資は考えていないのか。

→(事務局) 横浜市の財政状況が厳しい中で改修を行うので、施設を改良するのではなく、座席の背面にタブレットが置けるようにするといった工夫で検討している。タブレット等は日進月歩の世界になっているので、1回設置すると、更新でまたお金がかかってしまう。そういったところも見据えながら設計を進めている。

・休館中の指定管理料はどうなるのか。

→(事務局) 今後、指定管理者と協議しながら検討していく。

・休館期間中にシステム投資によって利便性を高めることを検討してほしい。

→現状、チケットレスのシステムを利用しているのは来場者の3分の1ぐらい。

予約システムはクラウドのシステムを利用しており、使い勝手がよく費用もそれほど高くない。1度大きな投資をしてしまうと、10年そのまま固定になってしまうようなことにならないように、少しずつ改善していけるような形、社会で使っているものをうまく取り入れるような形で考えている。

6 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。